神との想い出　　岡本　悠

中野にとって、神とは、キリストだった

神は、もう、生まれた時からいた

しかし、しっかりと存在を現したのは

１年半前だ

神は、中野に言った

「神の試練に着いてこれるかな？」

中野は、半信半疑だった

ウンコを食うなんてことは、

実は、どうでもよかった

吐き気を、するなんてことも

どうでもよかった

…

中野は、睨みつけて、乗り越えた

電車の中では、男を睨んだ

焼肉屋でも、男を睨んだ

そして、空間を支配した

あの時は、男が電車で

「やるのか！」

と、力んだ

その頃、中野は、ひとみ、と、恋に落ちた

中野は、花を買った

神は、花屋で、中野を支えるのをやめた

中野には、それが、ひっかかっていた

ひとみ、とのデートが終わると

中野は、神に食ってかかった

なんで、俺を騙した！

ある時は、花屋の女性に

愛を告白した

しかし、花屋の店長と

神は、小競り合いを起こした

神は、その店長から目を逸らさず

主張した

「なぜ、好きな子を愛したらいけないんだ！」

図書館では、神は、女を見つめた

しかし、不審に思ったその女は

まるで、手柄でも取ったように

警備員に通報した

神は、中野を励ました

見るということに関して言えば

男との争いはやめた

不毛だからだ

ケンカになるだけだから

だから、女だけを見つめた

中野は、それを歌にした

中野が、白鳥さんに恋をした時は

恋文、つまり、ラブレターを

一緒に考えてあげた

中野は、ラブレターは出せなかった

神は、中野を爆笑させた

さまざまな差別発言を言うことにより

逆に、それが、笑いになった

中野は、苦しかった

大量の涙を流した

笑いすぎて...

神は知り合いに会う時も

器用に立ち回った

今までの、小汚い

中野とは違った

メールや手紙、LINEに関しても

神が、ほぼ担当した

時には、ぬいぐるみ、の、とんみー、のことを

神が、演じた

そこに、とんみー、の、言葉が生まれた

昨年の、流行語大賞は「古い、古すぎる」だった

文子に告白する時は、

中野は緊張していた

神は、「文子も、中野も、２人とも、しょうがねえな」

と、からかった

そして、作戦通り告白した

神は、おしおき、もした

中野に、生意気な態度をとったものには

さまざまな方法で

罰を与えた

ボクシングジムでは

神は、物凄い吸収の早さで

会長を驚かせた

神が認めていた人物は、イチローくらいだった

神は、小手先のナンパは嫌いだったが

中野の勇気をつける為に

幾度かナンパさせたが

失敗しかなかった

えてして、中野は、神の奴隷となった

神により、仕事場を辞めた

神により、バーに行き

神によりバーに行くのをやめた

中野が神を愛するのは

２つの意味があった

それは、自然なこと

そして、もう１つは、１人では生きていけないからであった

中野は、神の完璧さを愛した

カッコイイと思った

ブレなかった

ただ、中野は重大なミスをした

神を、女に、置きかえようとした

しかし、神は女ではない

崇高なる神である

中野はまだ、神の愛しかたを、わかっているようで、わかっていなかった

でも、愛してはいた

神は、中野に小説を書かせた

神は言った

「もう、罠にはハメないよ」

中野は、疑った

「絶対、またするよ」

「それでも、いいじゃない」

中野は、本心から嫌だった

これからどうやって生きてゆけばいいの？

中野の口癖だった

神は、哲学を封じた

神は、中野に尋ねた

「何に、恐れているんだい？」

中野は、「何かにです」

「それは、動物の本性だよ」

中野は神に尋ねた

「永遠に、一緒にいてくれるんですか？」

「そうだとも」

中野は、嬉しかった

もう、孤独じゃなかったし、

神といれば、怖いことも忘れられた

謝肉祭の日、中野は、神と、とんみー、と、アーコを呼んで、パーティーをした

ショートケーキを食べた

カマキリは言った

「あいつ、カプセルに、愛を隠しているぜ」

中野は幸せだった

そして、歌を唄った

「神が嬉しいから、神が嬉しいから」

そして、２曲目を唄った

「神よ　教えて欲しい～」

神は言った、「中野を、愛しているよ」と...

「完」